

高齢者の早期前立腺癌に対する適切な治療指針の作成

三塚浩二¹⁾、荒井陽一¹⁾、神宮啓一²⁾、笈 善行³⁾、大山 力⁴⁾、
山口拓洋⁵⁾

- 1) 東北大学大学院泌尿器科学分野、2) 東北大学放射線治療科、
3) 香川大学泌尿器科、4) 弘前大学泌尿器科、
5) 東北大学病院臨床研究推進センター

【目的】高齢者の早期前立腺癌に対する適切な治療適応の指標を新たに作成する。

【方法】これまでに施行された前立腺癌に対する治療に関する情報を収集し、高齢者と非高齢者では治療成績や有害事象、および予後についてどのような違いがあるか比較検討する。

【概要】現在までに各治療法につきそれぞれ下記のような方法でデータの収集・解析を行い学会・論文などで発表してきた。①前立腺全摘：東北大・弘前大・秋田大・宮城県立がんセンター、計 1,300 例以上) のデータを解析し高齢者の治療適応や成績について検討。②放射線治療：東北大学で 2013 年までに行われた IMRT の治療解析。③PSA 監視療法：泌尿器科医師へのアンケート調査による PSA 監視療法の意識調査。④ホルモン療法：東北大学を中心とした臨床研究グループで施行したホルモン療法研究から得られたデータを用い高齢者へ与える影響を解析。

【成果】各治療法につき、年齢が治療法選択や治療成績などに関する結果を学会・論文などで報告した。今後さらに詳細な解析と高齢者の評価に関する検討を行い、高齢者における適切な治療選択の指標を作成していく予定である。